

県 広 報

とやま

特集/知事対談
-花と緑、そして文化-

TOYAMA PREFECTURAL REPORT



2

1996
No.325

世界の美術との新鮮な出会いの場

—富山県立近代美術館—

レポーター: 県立保育専門学校 常石真紀さん
(表紙の人)



▲色彩も鮮やかなアンディー・ウォーホルの「マリリン」



◀ユーモラスなブロンズに思わずにっこり



▲「ミュージアム・アトリエ」の様子

◀ビデオアートなどの映像を視聴できるビデオブース



▶白御影石とミラーガラスに囲まれたシンプルな外観



今回、私が訪れた県立近代美術館は、二十世紀美術を中心に収集・展示を行う美術館として全国的に知られていいます。

さっそく学芸員の鈴木さんに二階の常設展示室を案内してもらいました。ここには、ピカソやミロ、ルオー、シヤガールといった二十世紀美術の巨匠たちの作品などを展示。美術の教科書でも馴染みの作品が地元の美術館にあるなんて、本当に感激です。鈴木さんには、作品から読み取れる時代背景や、同じ作者が画風を変えていく様子などを説明してもらいました。絵画は

もちろんですが、特に私が気に入ったのは浜田知明氏のブロンズの数々。どこかしらユーモラスなその姿に思わず吹き出してしまいました。

一階の企画展示室では、定期的に行われる企画展が行われています。私が訪れたときは「みんなのでつくろつ'96」が開催中。子どもたちの夢や空想が展示空間いっぱい広がっていました。

このほか、実際に創作することで美術の楽しみを知る「ミュージアム・アトリエ」や、講演会・映画会などの催しも行われているとのこと。私もぜひ

参加して、もっと美術に親しんでみたいと思いました。

「作品の意味を知ろうとしてはいいかもしれません。それから何かを感じ取れば、それが鑑賞の第一歩なんです」と鈴木さん。私が見て気に入れば、それが自分にとつての素敵な作品。そう考えると美術鑑賞が楽しくなりそうです。皆さんも近代美術館で世界の美術を肌で感じてみませんか。

場所	富山市西中野町1-16-12
開館時間	午前9:30~午後17:00
休館日	月曜日 祝日の翌日 年末年始
常設展示観覧料	一般200円 高校・大学生160円 小・中学生100円

いつも身近に感じよう

FMとやまアナウンサー 車谷恵子さん



2 CONTENTS

2月号もくじ

「女性がアクティブに活躍できそうな職業だと思ひ、放送業界に就職したんです。」と、FMとやまアナウンサーの車谷恵子さん。FM放送を聴く人なら、そのはつらつとした声をしばしば耳にしていることでしょう。

「ひと口にアナウンサーといっても、企画立案から取材、原稿作成まで、自分の受け持ち分は一人でこなさなければいけません。仕事は大変ですが、いろんな人に出会い、そしていろいろな体験ができるのが魅力だと思ひますね。」今やアナウンサーは最も人気の高い職種の一つ。でも、憧れだけでやっていける職業ではないと車谷さんは強調します。「知力よりもむしろ体力が要求される世界です。それと、華やかな職種に見られがちですが、やはり地道な努力が欠かせませんね。」

その言葉が示す通り、座右の銘は「努力に勝る天才なし」。「小学校を転校するとき、校長先生が色紙に書いてくれた言葉です。なぜかとっても印象

に残っているんですよ。」

現在は、県の提供番組「ふれあいホットライン」(月々金曜 午前九時五〇分)、「パワー・ホット30」(土曜 午後七時)などで活躍中。とにかく今は毎日が勉強、という車谷さんが考えるラジオの魅力とは? 「テレビのように皆でいっしょにワイワイ見るものではなく、聞き手と一対一で向き合えるのがラジオの良さだと思ひます。その意味で、リスナーの皆さんが少しでも私を身近に感じて下されば嬉しいですね。」

大学時代には教育学部で声楽を専攻していたとのこと。「歌の練習には随分時間を費やしました。聞き手に自分の感じるところを伝えるという点では、歌と今の仕事とは合い通じるものがあるかもしれません。」趣味は、ドライブと水泳。気が向けば昼夜を問わず一人愛車で出かけることもあるとか。理想の男性のタイプは? との問いには、「自分のポリシーを持っている人。これだけは誰にも譲れないぞ、というものがあの人かな。」とにっこり。

終始、持ち前の明るい笑顔と爽やかな声で答えてくれた車谷さん。今日もラジオから素敵なメッセージをあなたのもとへ届けてくれることでしょう。

※「ふれあいホットライン」.. 県内のホットな話題や県政ニュースなどをオンエア。(月曜〜金曜 午前9時50分)

撮影/赤羽仁論(富山県写真家協会会員)	表紙
とやま遊学感	表2
県立近代美術館	1
ひとアズとやま	2
FMとやまアナウンサー 車谷恵子さん	4
クロージングアップ	8
①五箇山合掌造り集落	10
②世界遺産に決定	12
③環境基本条例制定	14
特集/知事対談	16
「花と緑、そして文化」	18
PINUP TOYAMA	20
写真/松田 勉(富山県写真家協会会員)	22
詩/山本哲也(富山現代詩人会会員)	24
ふるさとみである記(福光町)	26
①朝日なないろ特産会	28
②大家庄若駒太鼓会	30
③朝日町方言地名談話会	32
エッセイ/雪山玲子	34
(雪ん子劇団主宰)	36
シリーズ 花ある人を育てる緑	38
彩りとやま緑化祭'96	40
県からのお知らせ	42
暮らしのアドバイス	44
とやまの祭事記/愛宕神社の鎮火祭	46
(富山市)	48



合掌造り集落 世界遺産に 決定



▲平村相倉集落

平村相倉と上平村菅沼の両集落が、岐阜県白川村の荻町集落とともに「白川郷・五箇山の合掌造り集落」としてユネスコ（国連教育科学文化機関）の世界遺産に登録されました。昨年十二月にドイツのベルリンで開催された第十九回世界遺産委員会で決定されたもので、日本では六番目の登録となります。

指定されたのは、相倉二十棟、菅沼九棟、荻町五十九棟の合掌家屋のほか、板倉や土蔵などの伝統的建造物と、これらと一体となり歴史的風致を形成している石垣や雪持ち林などを含めた六十八ヘクタール。庄川上流の山岳・豪雪地帯という厳しい地形・気候風土のなかで発達した合掌家屋が昔ながらの姿で残っていること、集落の歴史的景観と周囲の自然環境が良好に保たれていることなどが高く評価されたものです。

今後、当該物件は人類全体として保護すべき「世界の遺産」として広く認識され、紹介されることとなります。通常の歴史的建造物とは異なり、現に今も人々が暮らす民衆が人類の遺産として認められたことは、大変意義深いといえるでしょう。

平・上平村両村では、これを契機に合掌集落の保全と地域振興を目的とした「五箇山地区まちづくり事業推進計画」を今年度中に策定するほか、富山・岐阜両県および三村で四月をめどに保全会議を設立し、保存・継承に努めていく予定です。また、三村合同による記念式典が四月に開催されます。

世界の遺産を後世に



五箇山自然文化研究会副会長
北 厚子さん
(上平村菅沼集落在住)

昔から受け継がれてきた財産が世界遺産に登録されたのは、本当に喜ばしいことです。これらを守ってきた先人たちに感謝するとともに、後世に伝えていくのが私たちの役目であると考えています。

私自身ここに住んでいながら、以前は観光客の質問に答えられないことが度々ありました。そこで、郷土について勉強する機会を設置を村に提案したところ、意図を理解してくださって、平成三年に自然文化解説員養成講座が開かれました。そして一昨年、

解説 世界遺産
一九七二年のユネスコ総会で採択された「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」（世界遺産条約）に基づき、世界的に重要な自然・文化遺産を人類全体の遺産として保護する制度。
日本では、今回の白川郷・五箇山の合掌造り集落のほか、法隆寺の仏教建造物、姫路城、古都京都の文化財、白上山地、屋久島が登録されている。



▲屋根の葺き替え体験

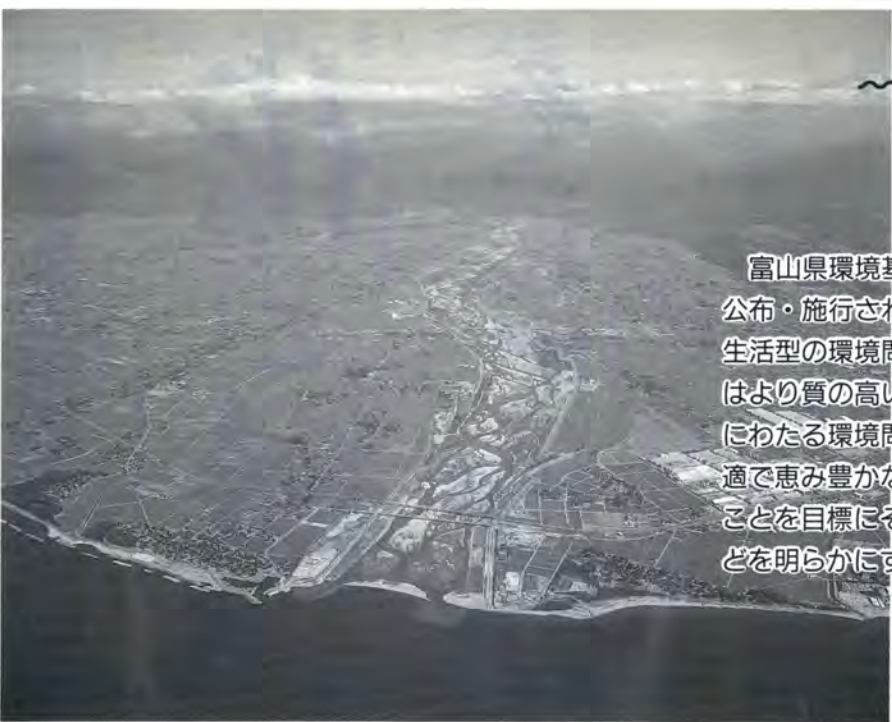
より裾野の広い活動を行おうと、自然文化研究会が発足したんです。現在、会員は四十八名（うち村外在住者二十六名）にのぼります。

今年は、相倉集落での屋根の葺き替え体験や、昔の大事な食料源であった栃もちの手づくり体験などを通じて先人の知恵を学んだほか、観光客に対する解説活動も積極的にを行いました。

世界遺産への登録で、今後、観光客の増加が予想されます。これからは、住民のプライバシーが侵害されたり、ゴミの投げ捨てで景観が損なわれたりしないよう、正しい観光のあり方などについても呼びかけていきたいですね。

富山県環境基本条例を制定

富山県環境基本条例が平成7年12月20日に公布・施行されました。この条例は、都市・生活型の環境問題から地球環境問題、さらにはより質の高い環境の創造までの幅広い分野にわたる環境問題に対処するため、環境を快適で恵み豊かなものとして保全し、創造することを目標にその基本理念や基本的な施策などを明らかにするものです。



制定の意義

私たちの日常生活は便利になりましたが、他方で大量生産・大量消費・大量廃棄の生活様式が定着し、資源やエネルギーの消費やごみの増大により環境に与える負荷も大きくなってきています。こうした多様化する環境問題の解決には、地球環境も視野においた新たなライフスタイルをつくりあげることが求められており、そのためには行政側の対応だけでは不十分で、県民一人ひとりの行動の積み重ねが必要です。富山県環境基本条例は、これらを踏まえ、従来の工場のばい煙や排水などを規制する手法だけでなく、環境教育・学習の推進、県民や事業者などの自発的な活動の促進などいろいろな手法を総合的に講ずるための新しい枠組みとなるものです。

内容

富山県環境基本条例は

- ① 快適で恵み豊かな環境の恵沢の享受と継承
- ② 環境への負荷の少ない持続的な発展が可能な社会の構築
- ③ 地球環境保全の積極的推進

これらの基本理念のもとに、環境の保全と創造に向けた行政・事業者・県民の責務を明示し、また施策を総合的かつ計画的に推進するための環境基本計画について規定するほか、環境影響評価の推進、公害等の規制、施設の整備等の事業の実施、地球環境保全に関する国際協力等の環境の保全と創造に関する基本的な施策を

明らかにしています。

環境にやさしい 社会の構築に向けて

県としては、今後この条例に基づき、経済社会活動全体が環境に配慮されたものとなるように、公害の防止や自然環境の保全、さらには地球環境の保全までも視野に入れた総合的な視点から各種の施策を計画的に進めて行くこととしています。県民の皆さんにも資源やエネルギー消費の抑制やごみの減量化などに努めていただき、「環境にやさしい社会」の構築をめざしていきます。



県政の動き

平成7年12月11日～平成8年1月10日

- 12月11日 人口問題バーチャルシンポジウム（～25日）
- 12月16日 立山山麓スキー場合同オープニングフェスティバル
- 12月28日 執務収めの式
- 1月4日 執務始めの式
- 1月5日 みんなでつくろう'96展（～2月4日）
- 1月7日 富山県市町村会館竣工式

花と緑、そして文化

富山県では今年、「全国都市緑化とやまフェア」、「国民文化祭とやま」といった全国的なイベントが華やかに展開します。今回は、富山大学教育学部教授の長井眞隆さんと、話力総合研究所北陸支所長の吉友嘉久子さんをゲストにお迎えし、『花と緑、そして文化』と題して、この二大イベントを中心にその開催意義などについて中沖知事と語り合っていました。



富山県知事
中沖 豊

- 富山県知事
中沖 豊
- 富山大学教育学部教授
長井眞隆
- 話力総合研究所北陸支所長
吉友嘉久子
- 司会
永井宏子（北日本放送）

とやま緑化祭への期待

司会 雪解けとともに春を迎えると、チューリップフェアを皮切りにいよいよ

よ全国都市緑化とやまフェア『彩りとやま緑化祭』が開催されますね。

花と緑の県を目指して

知事 おっしゃる通り、県内の公園もどんどん増やしていかなければいけませんね。現在、県では全県域公園化構想を進めています。幸い本県は自然公園の面積比率が全国一、植生自然度、つまり緑の度合いは本州一、都市公園の面積比率も全国トップレベルなんです。また、チューリップの球根生産額は全国一で、砺波市にある県のチューリップ遺伝資源センターでは、世界のチューリップ品種の保存と活用を図っています。



り組んでいることを強調したいですね。
長井 知事はよく「屋外の花と緑は良くなってきたが、家の中が少し寂しい」と

吉友嘉久子

- 話力総合研究所北陸支所長
- 文化の県づくり懇話会委員
- 国民文化祭富山実行委員会企画委員会委員



神奈川県横浜市生まれ。1971年から北日本放送のラジオパーソナリティーとして18年間、朝の生放送番組を担当。現在、話力総合研究所北陸支所長をつとめ、社会教育などの講師として活躍中。著書に『女性のための話し方』、『きらめいて、朝！』などがある。

長井 百三十五日というフェアの開催日数は、通常の倍以上です。また知事がおっしゃったように、会場も全県域に広がっています。このことは、富山県の持つ自然や風土に深く関わっているといえるでしょうね。

富山県は立山などの高い山麓の下に扇状地が広がって富山湾に接するといったように、大変わかりやすい地形をしています。また、気候が温暖で雨がたくさん降るため植物の生育が非常にいいんです。また、寒さの代名詞とされる雪は、実は植物にとって暖かい布団のようなものなんです。

農村にはかつては屋敷林がたくさんあり、ツバキやツツジなどが植えられていました。つまりここには、自然と仲良くしながら生活を豊かにしていくという伝統、風土が根づいているんです。

吉友 私は横浜から富山に移り住んできたとき、大きな自然に包まれている県だなという印象を受けました。特に、四季がはっきりとした形で訪れることに感動しましたね。ただ最近では、街の中の緑の管理にもっと力を注いでいかなければいけないと感じています。

以前、仕事でヨーロッパに行ったんですが、そこは街の中に公園があるというよりは、緑のなかに街があるという感じなんです。富山県の目指す姿もそこにあるのではないのでしょうか。その意味でも、今度のとやま緑化祭にはすごく期待しているんですよ。

花と緑、そして文化

特集
知事対談

知事 全国都市緑化フェアは、建設省の提唱で昭和五十八年から全国各都市で開催されてきました。本県での開催は、本州の日本海側では初めてとなります。これを契機に「日本一の花と緑の県づくり」をさらに進めていきたいですね。

とやま緑化祭は、高岡古城公園と高岡おとぎの森公園をメイン会場に、砺波チューリップ公園、富山県中央植物園、県民公園太閤山ランド、県民公園頼生の森の四会場をテーマ会場に開催されます。また、花の名所など県内百三十五か所をサテライト会場として選定し、まさに全県域がフェア会場となるのが大きな特色です。さらに、四月二十日から九月一日までの百三十五日間という長い開催期間の中で、メイン会場とテーマ会場の花と緑の最も美しい時期を順次リリースするという「リリース方式」を採用しているほか、ロンドンの二階建てバスを使って各会場を結ぶなど連携を密にし、いろいろなことを考えています。

長井眞隆

- 富山大学教育学部教授
- 第十三回全国都市緑化とやまフェア実行委員会企画委員
- 国民文化祭富山実行委員会企画委員会座長



黒部市生まれ。富山市科学文化センター館長を経て、現在、富山大学教育学部で教鞭を取る。全国科学博物館協議会理事、日本博物館協会評議員などを歴任。昭和61年に、日本博物館協会棚橋賞を受賞。著書には『食卓の自然誌』、『富山の人と植物』、『豪雪』などがある。

おっしゃいますね。確かに玄関を開けたときにばつと花があると、何ともいえない良い気分になるものです。
この四月に県の中央植物園がオープンしますが、この施設には様々な展示温室が整備されています。これらが、屋内に花と緑を取り入れる機運を高めていくことを望みたいですね。そうすれば、名実共に花と緑の県となるのではないのでしょうか。

吉友 そういう風潮が広まるのは大変喜ばしいことです。ただ、失ってはならないのは花を愛する心です。私は今まで、俱利伽羅峠にご自身で七千本の桜を

お植えになった高木勝己さんや、二十年以上も費やしてチューリップの新品種を開発された西井謙治さんなど、生涯をかけて花と緑を育てておられる方々にお目にかかってきました。これらの方々の花や緑を愛する心が、故郷や人を愛する愛情へとつながっていくんでしょね。

長井 花は何のために咲くのかを考えてみると、果実が実って命を次の世代へ伝えるために咲くんです。このようにとらえれば、花に対する愛情も湧いてきます。重要なのは、あくまで植物と人は共生しているんだという基本的な認識だと思えますね。



知事 おっしゃる通り、これからは自然と人間との共生が非常に重要になってくると思います。とやま緑化祭のテーマは「まち・ひと・くらし花ある人を育てる緑」ですが、これは、花や緑のある街づくり、暮らしづくりを積極的に進めていこうというものです。県民総参加により、開催テーマの実現を目指したいですね。

ところで、この「花ある人」というのは非常にいい言葉だと思います。思いやりがあつて人々の心を明るくする人といった意味ですが、富山県民の皆さんには、ぜひ「花ある人」になってもらいたいです。

長井 例えば博物館の持つ意味を博览会との比較で考えると、博览会は未来に向かって人々の情熱を発散する場所であるのに対し、博物館は、過去を大切にしながら今はどうか、未来はどうかを探るところなんです。
その点を踏まえたくて、疑問を持つたことはすぐ博物館や図書館へ行つて調べるとか、施設を上手に利用することを県民自身ももっと工夫していくべきではないでしょうか。

知事 私は文化を考える際に基本とな

るのは、ハードとソフトの融合だと思えます。施設などのハード面では、先に述べたように、かなり充実してきていますが、ソフトの部分がやや遅れていると思うんです。

サッカーではサポーターというシステムがありますが、文化施設についてもボランティアを含めた地域住民の積極的な参画や協力が得られるようなシステム、例えばホールサポーターといった仕組みをつくるなど、もっとソフト面を充実させることが必要でしょうね。

国民文化祭と文化の創造

知事 今年の本県で、九月二十八日から十月七日までの十日間、「いのちとくらしーとやまマンガラ大絵巻」をテーマに国民文化祭が開催され、三十二の主催事業が県内二十八市町村で繰り広げられます。このイベントには、国内外から約一万人の出演者が訪れ、県内の出演者も約一万五千人が見込まれています。県民の皆さんには、これから富山県の文化の担い手として、ぜひこのイベントに参画して、文化の素晴らしさを肌で感じ取っていただきたいですね。

長井 昨年の十一月に開催されたプレ国民文化祭の市街パレードを見たんで



地域文化の振興のために



▲国民文化祭とやまのマスコット、とや丸

司会 文化の面では近年、利賀村の世界演劇祭、国際アマチュア演劇祭など文化活動が盛んになってきているほか、文化施設の整備も随分進んでいますね。

知事 県では「日本一の文化の県づくり」を目指しており、その指針として、県民の県民による県民のための「富山県民文化プラン」を策定して、様々な施策を展開しています。

例えば、芸術文化活動の拠点として平成六年に開園した富山県利賀芸術公園では、県外若手プロを中心とした春のフェスティバルや、演出家の鈴木忠志さんが主催する劇団「スコット」を中心とした夏のフェスティバル、県の芸術文化協会を中心とした秋のフェスティバル

ですが、私が一番衝撃を受けたのが「越中おわら」と「せりこみ蝶六」なんです。特におわらは、一見静かですが自己主張がないように見えますが、指先から爪先まで体全体を使って表現する様は圧巻で、こんなすごい文化が富山にあったのかと改めて感動しました。

吉友 身近にあるものは当たり前すぎてついその価値を見過ごしてしまうものですね。

私は文化の県づくり懇話会の委員をさせていただいており、委員の方々のいろんな意見を聞く機会がありますが、なかでも共感を覚えたのは、文化の日本一になるためには、「ベストワン」より、「オンリーワン」を狙うべきであるという意見です。ユニークさとか「らしさ」といったものの中に、地域文化の持つ意味があると思えますね。

司会 最後に皆さんから、富山に対する思いや、今後の豊富を伺いたいと思えます。

長井 二十一世紀に向けての県民共通の願いや意識というものを、文化の創造というところへ置いてはどうでしょうか。他の人が見て感動するもの、しかも富山県の伝統のうえに立ったものを県民自らが創造していくことを期待したいですね。

吉友 文化の環境整備を考えた場合、や

など、多彩な催しが展開されています。また、昨年七月に開苑した立山博物館「まんだら遊苑」は、天国と地獄を五感で体験できる全国的にもユニークな施設となっています。

さらに、昨年十二月には平・上平の合掌造り集落が世界遺産に登録されましたが、これは古くから息づく先人の知恵の結晶ともいえ、大変意義深いと思えますね。
このほか、文化ホールや美術館といった施設についても、人口あたりの設置率は全国一です。また、公のものばかりではなく民間にも多くの文化施設があることは、非常に素晴らしいことだと思えますね。

吉友 文化施設が整備されてきたのは大変うれしく思います。これからは、それらの施設をどうやって活用していくかを考える必要があるでしょう。富山県には県立近代美術館や高岡市美術館といった個性的な美術館をはじめ、立山博物館や魚津埋没林博物館など特色ある博物館が多いですね。また、図書館や公民館は身近な文化施設としてよく利用されています。

これらをもっと活用して地域の文化を高めていくには、どういう場があつてそこで何が行われているかをしっかりと情報発信していくことが大切だと思います。



やはり今後はハードを動かすソフトの充実がとて大切になってくると思えます。そのためには、県民一人ひとりが富山の文化の良さをポジティブに捉えて、PRしていくことを期待したいですね。

知事 今年も激動と混迷が続くと思われれます。いつも申し上げているんですが、このような時代には明確なビジョンを持つこと、そしてそれを着実に実行していくことが大切です。今年度は、新しい県民総合計画の後期事業計画がいよいよスタートします。これからは人材立県、生活立県、国際立県という三つの立県構想のもと、県民の皆さんと一緒知恵も汗も出して頑張っていきたいと思えます。

司会 今日はどうもありがとうございました。

(この対談は、一月二日に北日本放送で放映した内容を要約したものです。)



冬の黒部湖

撮影/松田 勉 詩/山本哲也
写真プレゼントについては16ページ参照

山岳も湖も
黙り込んでいる
鳥も獣も
可酷な大自然には
謙虚に
人間は
平凡に
素直な思想で
耐え得るものだろうか
潜める氣息へこそ
偽りのない
敬虔な祈りを
捧げたい

朝日町

朝日町の概要

北アルプスと日本海がドッキングするヒスイ海岸(宮崎・境海岸)は、ヒスイの原石が拾える海岸として有名。縄文中期の住居跡である不動堂遺跡、古美術を集めた百河豚美術館などの見どころをはじめ、たら汁、パタパタ茶など、特産品も多い。また、ビーチボール発祥の地としても知られ、毎年全国大会が開かれている。



(平成7年12月1日現在)

方言・地名の由来を求めて

朝日町方言地名談話会



▲金森喜一さん

三十年の歴史を誇るこの会のメンバーは、現在約二十名。これまで「朝日町の方言五千語」などの冊子を完成させたほか、現在は機関紙の発行や一般の方も参加できる「方言地名郷土を語る会」の開催などを手がける。無論、メンバー同士の情報交換にも余念がない。「今までの研究の集大成として、ぜひ東西の方言の違いをまとめたたいですね」。今後も金森さんはじめ会の皆さんの手で、方言や地名の由来が次々に解明されていくことだろう。

▼研究成果を「まなびピアとやま in 魚津」で発表



新潟県親不知近辺は、日本の東西の言葉の境界であるとされる。それに近い土地で方言や地名の由来を研究しているグループが「朝日町方言地名談話会」である。代表の金森喜一さんにお話を伺った。

「例えば、『匂い(芳香)』を意味する言葉は全国で十一種類ありますが、五種類が県内に集中しているんですよ」と金森さん。ちなみに朝日町では「はなが」と「氷見では『ふが』、『ほが』と言うそう。また地名については、例えば、『ほが』と言うそう。また地名が名前になっている場合が多いという。「例えば、『馬場』という地名は、昔、城の近くにある場合が多かった。馬を調教する場所からきています。つまり、この地名の近くには、昔、城があったことが推測できるんですよ」。金森さんのお話を聞いてみると興味がいっぱい。

▲「方言地名を語る会」の様子

七色に輝く特産品を目指して

朝日町なないろ特産品



▲朝日なないろ特産会メンバーの方々



▲弓野良子さん

「会が主体となって、昨年七月と八月の毎週日曜日の朝、『朝どり市』を開いたところ、予想を超える人々で大盛況でした。朝どりにこだわった新鮮な野菜や金糸瓜の粕漬、冷凍のさわし柿なども好評だったんですよ」と弓野さんは声を弾ませる。このほか、東京の消費者団体と交流会を開き、試作中のものを食べてもらって感想を聞くなど、新たな特産品の開発にも力が入っている。

今はイベント会場での販売が主だが、「来年には常設の売場で年中販売できるようにします。おいしいものを求めて大勢の人が集まってくる場にする、それがみんなの夢なんです」と期待に胸をふくらませる弓野さん。会のみなさんの地道な取り組みが、大きな実を結び日も近い。

地域農業の活性化を図るため、付加価値の高い商品開発や販路拡大などに取り組んでいるのが、昨年四月、町の呼びかけで誕生した「朝日なないろ特産会」である。

「七色に輝く特産品ができるように願いを込めて名づけたんですよ」と語るのは、会長の弓野良子さん。この特産会は、金糸瓜グループ、アスパラガス生産組合など地元農家グループを中心とした二十五のグループで構成されている。

「会が主体となって、昨年七月と八月の毎週日曜日の朝、『朝どり市』を開いたところ、予想を超える人々で大盛況でした。朝どりにこだわった新鮮な野菜や金糸瓜の粕漬、冷凍のさわし柿なども好評だったんですよ」と弓野さんは声を弾ませる。このほか、東京の消費者団体と交流会を開き、試作中のものを食べてもらって感想を聞くなど、新たな特産品の開発にも力が入っている。



▲金糸瓜の粕漬

▲さわし柿



▲大家庄若駒太鼓会メンバーの方々



▲住吉有子さん

「和太鼓の魅力は、何といっても直接体内に響きわたるその音ですね」と語るのは「大家庄若駒太鼓会」会長の住吉有子さん。東京に住んでいた時に会社の和太鼓同好会に入っていた住吉さんだが、平成四年に夫の実家がある朝日町にUターン。地元農協の会合で「女性と子どもの和太鼓チームをつくるのが夢」と語ったところ賛同の声が集まり、会の発足となった。メンバーは主婦十二名と小学生十五名の計二十七名。地元のイベント等で威勢のいい撥さばきを披露している。

「発足当初は、和太鼓の借り受けや練習場所の確保に苦労しました」。そんな折、相談に乗ってくれたのが福光町「送熱太鼓」のリーダー、林敏三さんである。「林さんは、技術的指導はもちろん、和太鼓を通じて県境同士の交流を提案してくれました。今では、お互いの地域の祭に参加するなど、ますます交流が深まっているという」。

主な持ち曲は、子ども用の振付がかわいい「祭太鼓」や女性らしさを表現した「祝い太鼓」など創作したものが中心。「今後は古くから伝わる獅子舞や盆踊り歌に合わせた太鼓にも挑戦したいですね」。若駒の名の通りイキのいい太鼓の音が、町全体に活気をもたらしていくに違いない。

どこまでも響け 和太鼓の音

おおのしやう 大家庄若駒太鼓会

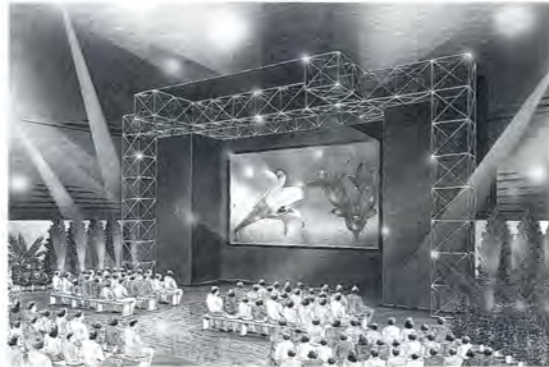
第13回全国都市緑化とやまフェア 彩りとやま緑化祭'96

メイン会場 高岡古城公園会場・高岡おとぎの森公園会場
 メイン会場会期 平成8年7月12日(金)～9月1日(日)
 提唱 建設省
 主催 富山県・高岡市・砺波市・財都市緑化基金

高岡古城公園会場

花のまち 2000坪の本丸広場は花のユートピア

- 富山県の象徴である水を用い、真夏のまちのオアシスを形成する「泉のひろば」を富山県が出展
- これからの暮らしの場や街角における緑花のモデルを提案する「花のひろば」、まちのポケットパークや小広場における緑花のモデルを提案する「緑のひろば」を民間企業が出展
- 約40の地方自治体が街角を彩る夏花壇をテーマに「街かど花壇」を競作



フローラルドーム 世界一、日本一が大集合

- 日本最大級310インチの大画面で未来のハイビジョン映像ショー（花の生命の神秘）を上映する「花のシアター」
- パイナップル、パパイヤ、マンゴーなど南国のフルーツがたわわに実り、フルーツジュースも楽しめる「トロピカルガーデン」
- ラフレシア（1m以上になる世界最大の花）、グンネラ（世界最大の葉をもつ草）などの珍しい植物もお目見え

高岡おとぎの森公園会場

おとぎの森館 夢とメルヘンのパビリオン



- 森の生態系を楽しく学ぶことができる操り人形劇場「マリオネットミュージカルシアター」
- 森の中を見せる不思議な「スライドシャワー」
- 山・野・海の動植物の生態を楽しく学べる地下回廊
- 花の雲や花気球、コンテナの花飾りなど、花いっぱいの安らぎ空間「アトリウムガーデン」

アミューズパーク おもしろ遊具がいっぱい

- 富山初登場のドラゴンコースター、ウェーブチェア、ジェットスターなど、わくわくドキドキするおもしろ遊具が大集合



【先取り情報⑤】

今回は、2つのメイン会場の大きな見どころをピックアップして紹介します。

◆おトクなメイン会場前売入場券、好評発売中！

主な旅行代理店、プレイガイド、JR駅、コンビニエンスストアでご購入いただくか、町内会などからの「回覧申込書」により申込み下さい。

問合せ先 全国都市緑化とやまフェア事務局
 〒933 高岡市本丸町7-1（本丸会館内）
 ☎0766-25-1510

21世紀にむかって はばたく こどもたち

雪ん子劇団主宰
雪山玲子

Essay
Essay
Essay

今年の秋、富山で国民文化祭が開催されます。昨年は某大学の舞台芸術学科の設置問題が云々されましたが、利賀村では劇団スコットが地方から中央へ演劇文化を発信しています。アマチュア劇団も世界演劇祭などで気炎をあげています。

そんな富山県ですから、国民文化祭演劇部門では、一昨年から、どうやって富山らしさを表現しようかと思案し、昨年暮れにはいよいよ具体的に進みはじめました。とやま国際演劇祭、国際こども演劇祭として、海外から数多くの劇団を招待しようとしています。私も海外の児童演劇を見るのははじめてですから、大変興味深いものがありますし、同じ演劇に携わる者としての交流をはかることができたかと期待しています。

演劇は、自分以外の人を演じてみることによっていろいろな人の立場を知ることができます。相手の立場に立ってみるということは仲々むずかしいことです。人間というのは本来自分中心でわがままなものだそうなんです。しかし、多くの人々と関わり合っている以上、相手の立場を考慮することはとても大切なことである筈です。そんな心を演劇を通して学ぶことができます。難民キャンプで生の様相を見ている犬養道子さんは、相手の立場を考えると、いうことは国際人としての第一歩だとおっしゃっています。仏教徒であった私の夫も「自分のことよりちょっと人のことを考えよう」ということをこどもたちにも言っていました。私のお寺の



雪ん子劇団のこどもたちはこれを合言葉にしています。おやつを分ける時も、下級生に先にとらせるやさしい上級生がいます。早がわりの舞台の袖で、下級生の面倒を見ていて自分が出遅れてしまった上級生もいます。人のことを先に考えるということは簡単なことではありませんが、雪ん子のこどもたちがその努力をしている姿に、うれしい思いをすることがたびたびあります。

雪ん子劇団の舞台の上では、どの子もみんな主役です。みんなが一つになって精いっぱい演じているこどもたちの姿は輝いています。こんなうれしい経験を劇団のOBGたちが、また演劇にとり組んでいます。劇団にいた頃は遊び半分でしたが、今は違います。いのちの尊さを訴える作品を作りながら、自分の人生を考えるようになりまし。観客と舞台が一つにとけ合って共に感動するよろこびを知ることができました。

今度の国民文化祭にむかって、小学一年生の雪ん子ジュニアから、二十七歳の雪ん子ジュニアまでが、心を一つにして芝居づくりに励むことでしょう。さらに世界のこともちたとの出会いの中で、生かされて生きる人間のなまのふれ合いを、うれしく感じとっていくことでしょう。

二十一世紀にむかって、はばたくこどもたち。

お知らせ

人口問題シンポジウム開催

「とやまのまちに、にぎわいを」をテーマに、富山県の人口問題を考えるシンポジウムを開催します。
事前にインターネットを利用したバーチャルシンポジウムで県内外から多くの意見をいただいております、それを素材に議論を深めます。

テレビ等で活躍中の八尾町出身女優、柴田理恵さんがパネリストの一人として参加するほか、話題のラップグループ「シンキロウ・エンド」の歌もあります。

日時 2月25日(日)
時間 分科会 午後1時30分(予定)
パネルディスカッション 午後3時(予定)
場所 高岡商工ビル2階大ホール
問合せ 県庁計画課 ☎0764-44-9607

「冬、富山、味な旅。観光キャンペーン」実施中

冬の富山ならではの美味しい「味覚」にホットなイベントが満載の「冬、富山、味な旅。観光キャンペーン」は、3月末まで実施しています。

主なイベント
○宇奈月温泉冬物語 (宇奈月温泉スキー場)
2月の毎週土曜日の夜に、雪に映え、色鮮やかな花火が打ち上げられます。
○らいちようバレエ雪の祭典

ひとり親家庭等電話相談

母子家庭や父子家庭などのひとり親家庭等を対象とした休日電話相談を行っています。

子供の教育など日常生活で悩みをお持ちの方や各種の福祉施策についてお尋ねになりたい方は、気軽に電話ください。
電話受付時間 祝祭日を除く毎週土曜日・日曜日
午前10時～午後4時
相談受付電話番号 ☎0764-32-4298

「民謡春まつり」開催

富山県教育文化会館ホールにおいて、「民謡春まつり」を開催します。

庄重華麗な津軽三味線「アイヤ節」に始まり、少年少女による民謡紀行、男女競演の歌合戦等、郷土民謡を中心に全国各地の民謡も織り交ぜ華やかな内容となっています。一足早い「春の息吹」をどうぞお楽しみ下さい。

日時 3月3日(日) 午前10時30分開演
場所 富山県教育文化会館ホール
料金 前売券 1,800円
当日券 2,000円
問合せ 富山県教育文化会館
☎0764-41-8635

みなさんの相談窓口

●県政について
県民相談室 富山市新総曲輪1-7(県庁内)
☎(0764)31-4111(代)
31-3131(県民相談電話)
高岡地方県民相談室 高岡市赤祖父211(総合庁舎内)
☎(0766)21-9411(代)
魚津地方県民相談室 魚津市新宿10-7(総合庁舎内)
☎(0765)24-5311(代)
砺波地方県民相談室 砺波市幸町1-7(総合庁舎内)
☎(0763)33-5151(代)

●物価ダイヤル
物価に関する苦情や相談があればお気軽にお電話ください。☎(0120)16-7400(県庁県民生活課内)
●消費生活については
消費生活センター
富山市安住町7-18 安住町第一生命ビル内
(一般相談は) ☎(0764)32-9233
(金融相談は) ☎(0764)32-3252
消費生活センター高岡支所
高岡市本丸町7-1 本丸会館内 ☎(0766)25-2777
●交通事故については
富山県交通事故相談所東別館1階
☎(0764)31-4111 内4400
●相談110番
家庭問題・悪質商法・寛せい剤など、どんな相談にも応じます。
☎(0764)42-0110

●シルバー110番
高齢者や家族の心配ごと、悩みごとに富山県高齢者総合相談センター
富山市舟橋南町5-14 社会福祉会館内
☎(0764)41-4110
●よい子の育児電話相談
子育てに関して心配や悩みはありませんか。どんなことでもお気軽にお電話ください。
☎(0764)33-4150(県庁生涯学習室内)

県からのホットニュース

見て、聞いて、ご意見をお寄せください。
●テレビ広報
■チューリップテレビ 毎週土曜日 AM9:25~9:40
「ふるさとトーク」
■富山テレビ 毎週日曜日 AM9:00~9:30
「112万人のひろば〜クイズ/フォーカス・イン」
■北日本放送 毎週日曜日 AM11:00~11:30
「こんにちは富山県です」
2/4 富山とくすり
2/11 快適空間 分煙のすすめ
2/18 私たちのふるさとづくり ~井口村~
2/25 省エネはみんなの力で
●ラジオ広報
■FMとやま「ふれあいホットライン」
県内各地からホットな話題をクリアなサウンドでおとどけます。
毎週月~金曜日 AM9:50~9:55
●新聞広報
■北日本、富山、読売、北陸中日、朝日、毎日
毎月第2、最終土曜日
「県からのお知らせ」

平成3月街頭献血日程

日曜日	献血場所	時間
3日	小杉町「小杉バスコ」前	10:00~16:00
8日	井波町役場前	12:30~16:00
17日	富山西武デパート前	10:00~16:00
20日	氷見市「ハッピータウン氷見店」前	10:00~16:00
21日	魚津市役所前	9:30~16:00

*都合により変更する場合がありますので、当日の新聞・テレビの街頭献血案内等でご確認ください。
●富山県赤十字血液センターでは、毎土曜日及び第2・第4日曜日(祝祭日を除く)献血を受け付けています。(受付時間9:00~16:45)
富山県赤十字血液センター
富山市飯野26-1 TEL(0764)51-5555

(2月17日(土)・18日(日) らいちようバレエスキー場)
ファイヤーストームやたいまつ滑降に、歌謡ショー、雪の女王コンテストなど、バラエティに富んだイベントが盛りだくさん。
●利賀そば祭り
(2月23日(金)~25日(日) 利賀国際キャンプ場周辺)
大小様々の雪像やかまくらをバックに、そば粉100%の手打そばや岩魚の塩焼、山菜料理など、本場の味を楽しんでください。

●庄川もちもち遊楽
(2月24日(土)・25日(日) 庄川町水記念公園)
庄川町特産のうすときねでついたお餅が味わえるイベント。あたたかい雑煮やおしるこコーナーもあり、心も体もホッカホカ。
このほかにも、冬の富山県は楽しいイベントがいっぱいあります。
問合せ 県庁観光通商課 ☎0764-44-3200

「なぜ、から始める現代美術」開催

近代美術館の収蔵作品を使い、とくく難しいと思われがちな現代美術をわかりやすく紹介する入門展を開催します。多くの方々、作品に対して抱くであろう「なぜ？」を手がかりとして、工夫をこらした展示とガイドブックにより、現代美術の世界を紹介します。是非、ご覧下さい。

会期 2月10日(土)~3月24日(日)
休館日 月曜日(但し2月12日は開館)
2月13日(火)・3月21日(木)
観覧料 一般 200(160)円
高校・大学生 160(100)円
小・中学生 100(60)円
()内は20名以上の団体料金
問合せ 県立近代美術館 ☎0764-21-7111

200X年 県民が燃えるプログラム 提案募集結果速報

昨年実施された提案募集では、県内外の富山県をこよなく愛する方々1,243人から2,370の提案をいただきました。厚くお礼申し上げます。
提案が多かった分野は、
①レジャーやイベントなど遊ぶ場の整備

啓発

確定申告はお早めに!

平成7年分の確定申告が2月16日から始まります。毎年、確定申告の期限間近になると税務署の窓口がたいへん混雑します。確定申告書はなるべく自分で記入し、早めに申告を済ませましょう。

- 所得税、贈与税、住民税、個人事業税の申告期限は「3月15日」です。
- 所得税の確定申告が必要な人は
①事業収入・不動産収入などがあり、これら所得が所得控除の合計額を超える人
②サラリーマンで次に該当するよう人
・給与所得が2千万円を超える人
・給与所得や退職所得以外の所得の合計額が20万円を超える人
・給与を2か所以上からもらった人
- 贈与税の申告が必要な人は、贈与を受けた財産額が60万円を超える人などです。
- 住民税、個人事業税については、所得税の確定申告所を税務署へ提出すれば、市町村、県への申告は不要です。
- 消費税の申告期限は「4月1日」です。
- 消費税の申告が必要な人は
①平成5年分の課税売上高が三千万円を超える個人事業者

②豊かな自然環境の保全と活用
③若者の感性に合った都市環境の整備
となっています。

また、小学校のクラス単位で、200X年を題材にした図画や作文で応募いただいたものや、楽しい絵やイラストをふんだんに使い、夢や未来を絵本風に表現したものなど、個性あふれる表現方法によるものも多く寄せられました。
これら提案をプログラム委員会が審査し、200X年賞5点、夢追い賞10点を選定、顕彰します。
審査結果の発表及び表彰式日程
日時 平成8年3月20日(水) 午後2時
場所 タワー11ビル3Fスカイホール
問合せ 200X年県民が燃えるプログラム委員会事務局
☎0764-44-9690

立山博物館 シンポジウム等のお知らせ

第3回「立山のこころ」シンポジウム開催

アジアの山岳にみる生命観・宇宙観を通して、生命力と治療(具体的には、医薬等による療法)とは何かを考えます。
テーマ 「山が癒す」アジアの生命力と医療(仮称)
パネラー 佐伯彰一(評論家)
杉浦康平(グラフィックデザイナー)
真鍋俊照(神奈川県立金沢文庫副館長)
難波恒雄(富山医科大学教授)
日時 2月10日(土) 午後2時~午後4時(午後1時30分開場)
場所 マリエとやま内富山県国際文化センター(オルピス) 入場 無料

「映像とトーク」開催

富山県山岳連盟が行った一九八三年ナンガバルバット遠征、一九八八年ロード・ピーク遠征、一九九四年ガッシャーブルムI峰遠征の時の記録映像を紹介するとともに、当時の遠征隊長であった佐伯尚幸氏を講師に招き、登頂への苦労や山の魅力について語ってまいります。
日時 2月11日(日) 午後2時~午後4時(午後1時30分開場)
場所 マリエとやま内富山県国際文化センター(オルピス) 入場 無料
問合せ 立山博物館 ☎0764-81-1216

自動車の登録変更の手続きは確実に!

次のような場合は、自動車の登録変更や廃車など、陸運支局での手続きが必要です。
●自動車の使用をやめたり廃車したとき
●自動車を売却したり下取りに出したとき
●住所などが変わったとき
自動車販売店など代理人に手続きを依頼した場合は、確実に済んでいるか確認しておきましょう。
手続きをせずに放置しておく、自動車税がいつまでも課税されるなどトラブルの原因になりますのでご注意ください。

寛せい剤・大麻等薬物乱用防止

最近、寛せい剤や大麻などの薬物は、主婦や若者といった市民層にまで広がっており、決して暴力団のような特殊な世界の問題ではありません。これらの薬物は、一度でも使用するとやみつきになり、身も心もボロボロにしてしまう恐ろしいものです。
寛せい剤等に関する情報や相談については、警察署・交番・駐在所までご連絡下さい。

祭事記

火の恩恵に感謝する 富山市愛宕町



愛宕神社鎮火祭

富山市の愛宕神社では、火の恩恵に感謝し、併せて火による災難が起らぬように祈願する「鎮火祭」が行われる。

「愛宕さんの火祭」と称されているこの鎮火祭は、「神火神事」と「鎮火神事」からなる。二月二十四日の午後、拜殿では消防関係者や氏子たちが見守るなか、神職が太古より伝えられる「火きり具」を使って木と木の摩擦熱で火をおこす。この火は「忌火」と呼ばれ、神に捧げられる清浄な火とされる。参詣者たちが敬虔な面持ちで見守るなか、忌火は火筒に移されて神前中央に捧げられ「神火神事」が終了する。

その後、参詣者たちは境内特設斎場に移動し「鎮火神事」が始まる。宮司は忌火を松明に受け、社殿前の祭場中央に井桁積みされた薪に点火。火の燃え盛る頃を見計らい、鍬で手桶の水をくみ取り、火鎮めの祈念とともに三度、水をかける。続いて神職が、川菜、土の順に火中に投げ、火を消す。最後に、消防車の奉納放水が行われ、鎮火祭は終了となる。

さて、この神社の主祭神、火の迦具土神は越中国司が京都愛宕山から分霊した火の神。富山藩時代には、藩の火災除けの祈願神社として保護され、藩主はもとより藩民たちの信仰を集めてきた。

日常生活には欠くことのできない「火」だが、取り扱いをおろそかにすれば、たちまち災いをもたらす。人々はこの日、火に対する慎みの心を新たに、今年の無事故を祈るのである。



暮らしのQ&A



うまい商売は本当に存在するの？ —マルチ(まがい)商法にご用心—

Q 友人が、「商品を買う会員を紹介するだけで確実に毎月数十万円儲かる商売がある」と熱心に私に勧めるのですが、私は信用できません。しかし、その友人は真剣で、転職まで考えているようです。本当にこんなうまい商売があるのでしょうか。

A 最近、このような販売形態で活動しているサークルに関する相談がよく寄せられます。本人からはもちろん、今回のように友人からや、熱心に販売活動をしている我が子を心配した親からの相談もあります。

この販売方法は「マルチ(まがい)商法」といって、新規会員を勧誘することで上の地位に上がり、成功報酬も増えるというピラミッド型の商品販売システムになっています。

この相談者が心配するとおり、こんなうまい商売があるはずがありません。入会する時には簡単に思えた会員勧誘も実際には、なかなかうまくいかないのです。強引な勧誘で人間関係が気まぐしくなったり、末端会員のままでは思うような報酬が得られないので、ついつい成績を上げるために商品を自分で抱え込んだりしがちです。商品の販売代金の支払のためにサラ金から借金をしてしまったというケースもあります。

このような被害に遭わないためには、うまい話だと安易に信じ込んでしまわず、周りの人の意見にも耳を傾け、時間をかけて冷静な判断をすることが大切です。万一、

相談は、県消費生活センター、電話0764(32)9233、高岡支所、電話0766(25)2777

編集後記

普段は自ら取材におもむき、いろいろな方々にインタビューしているFMとやまアウンサーの車谷恵子さん。今回は逆に取材される立場で、少々戸惑い気味?ひと通り質問を終えた後、「何か聞き忘れていたような気がするなあ」とつぶやく。車谷さんは、「入社時の動機は聞いたし、仕事の魅力も聞いたし、他に何かあるかなあ」と考え込む。取材する人、される人、二人で首をかしげているという奇妙な光景がそこにあった。

K 県東端、境にある后山(きさきやま)の「き」は、関所など人や敵の侵入を防ぐ「柵」を意味するため、「きさきやま」は「境の関所の手前にある山」と考えられる、とは朝日町方言地名談話会の金森喜一さん。いきいきと話すその姿はとも八十歳とは思えない。これからお元気で方言や地名の由来を説明して欲しい。(A)

雪が降り積もると、通勤手段を車から電車に変える人が多くなるためか、冬の朝の通勤電車は大都市圏でよくいわれる「痛」勤状態になる。今年はそのような光景が昨年より随分と早く起きています。近年続いていた暖冬傾向にピリオドが打たれる日も近そうだ。(Y)

今月号で掲載したPIN UP TOYAMAの写真を選定で5名の方にワイド六ツ切(25×18センチ)でプレゼントします。希望される方は、官製ハガキで下記の様式でお申し込みください。3月23日消印有効です。

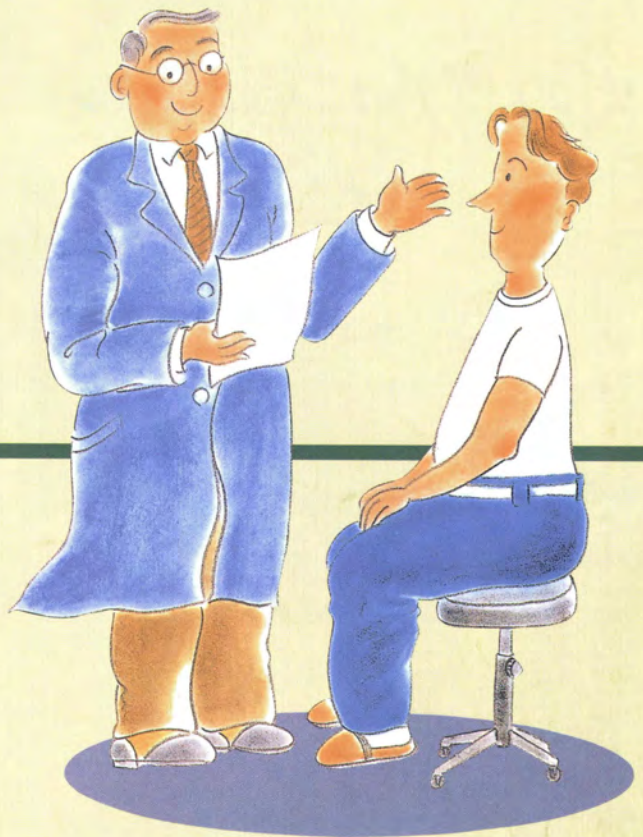
富山県広報課 写真プレゼント 2月号係あて	930 80
氏名	
住所	
電話	
本誌を読んだ感想	

心配するより、まず検診

2月1日から7日までは
「成人病予防週間」です。

がん、心臓病、脳卒中などのいわゆる成人病による死亡は、国民死因順位の上位を占め、総死亡の6割を超えています。

日頃の暮らしぶりを点検して、成人病の予防に努めましょう。



● 定期的な検診で健康チェック

成人病は無症状のまま進行するため、早期発見には定期的な検診が必要です。心配するより、まず検診を受けましょう。



● 健康づくりは毎日の食卓から

多様な食品でバランスのとれた栄養を取るようにしましょう。また、こころのふれあう楽しい食生活を心がけましょう。

● 生活の中に運動を

運動不足は動脈硬化をすすめる、成人病の危険を高めます。無理のない運動で血液の循環を良くしましょう。



● ゆとりの時間で みのりある休養を

規則正しい生活を送るとともに、“休日”を目的や楽しみを持った真の“休養”にしましょう。



● 禁煙、節酒で健康長寿

タバコは万病の元。禁煙に心がけましょう。また、お酒は控えめに、週に2日は“休肝日”を設けましょう。